



国立公文書館

分類 (返) (赤)

配架番号 3 A

14

64-4-2

東蘇ニ於ケル蘇軍々情

(蘇聯邦軍事參考資料昭和三十年五月十日参照)

要旨

1. 兵力ハ獨蘇戰爭前ニ復舊、質ニ於テ戰爭末期ニ製作セラレタル新兵器ヲ加ヘ改善セラレタリ。
2. 訓練、赤軍ハ夏季野營訓練スルヲ常トシ本年亦活潑ナル訓練ヲ行ヒツツナリ其訓練ハ次第ニ防勢ヲ攻勢ニ轉化セリ
3. 燃料、糧食ノ東送亦行ハレツツアルモ消費ヲ考フレバ此方面ニ於テハ戰爭中ノ狀態ト大差ナシ。
4. 對滿煽動謀略
低級ナル對白系露人宣傳放送ヲ繼續シツツアルモ謀略ニ關シテハ活潑化セリトハ言ヒ難シ
5. 兵力東送及活潑ニシテ大ナル刺戟ヲ受クルモ政情其他諸種ノ狀況ヲ綜合スルニ蘇聯ノ對日政策ハ戰備ヲ整ヘテ太平洋戰局ヲ注視シ發動ノ時機ヲ窺ヒツツ靜謐ヲ保ツニアリ
今時ニ緊迫セリト認メラレザルモ今秋以後彼太平洋戰局ト平行シ彼ノ態度ハ警戒ヲ要スベシ

めくれば

第三海軍 (太平洋艦隊)

1. 歐蘇ヨリ東送兵力約 3 萬現有兵力 7.5 萬乃至 8 萬

2. 艦艇

甲巡「カガノヴィツチ」「カリーニン」電探装備

甲巡「カガノヴィツチ」射出機装備水偵 1 機ヲ搭載ス (初/6)

昨年 8 月 800 噸級新型驅逐艦出現機装中ナリシ處 5 月初旬頃略完成軍艦旗ヲ掲揚セリ

艦名「アリバトロス」ナルガ如シ

乙巡「ソビリス」13 種砲ヲ門増強

潜水艦約 110 隻中實動 68 乃至 78 兵力東

送ニテ今後實動數ヲ増加スベシ

獨蘇戰爭中北氷洋艦隊へ移動セル兵力 (OLX14X2) SX5 位今還送スルヤモ知レズ注意ヲ要ス

3. 航空

昭和 7 年 5 月以降太平洋艦隊擴充推定兵器

遠爆聯隊 X 2 . 爆撃聯隊 X 3

戰爆襲撃聯隊 X 1 輸送機中隊 X 1

種別不詳聯隊 X 3

4. 陸上施設

上ノ乃至中ノ浦鹽港金角灣周邊高地ニ高角砲陣地新設セラレタリ

「ソフガヴァニ」「コムソモリスク」間鐵道 (蘇聯邦軍事彙報第 8 號參照) 本月ニ入り「アラスカ」

經由或ハ「モスクワ」 「ヤクーツク」方面ヨリ「ソフガヴァニ」向飛行機ノ行動活潑ニシテ且宗谷海峽ヲ通航スル蘇聯船舶 (援蘇物資積載) ノ「ソフガヴァニ」方向ニ回航スルモノ増加セル實情ヨリ見ルモ本線道完結セル公算大ナリ

5. 訓練

本月上旬ニ於ケル潜水艦ノ出動訓練毎週 35 隻延 70-100 隻ナリ

6 月 21 日現在可動推定

「エ」型 3 「エリ」型 7-9 「シチヤ」型

25-30 「エ」型 17 以上

小規模ナル海上護衛訓練等ヲ認ムルモ艦艇通信量日増ハ激減スル等緊迫事態ニアルモノトハ認ムラズ

陸軍

1. 兵力 蘇聯邦軍事參考資料參照

2. 東送狀況 本年 5 月下旬ヨリ在歐兵力ノ一部東送開始セリ、5 月以前ノ轉用兵力ハ航空 (戰闘機: 襲撃機) 防空兵力ヲ主体トシ若干ノ機甲、砲兵部隊ヲ含ミアリタルガ 5 月ニ入り航空機用兵力ヲ主トシ若干ノ砲兵部隊 (在歐) 力ハ對戰車砲部隊) 自動車部隊ヲ東送セリ而シテ 5 月中旬頃既ニ滿洲國東圍境方國境兵備ノ充實ハ一應完了セルガ如ク爾後逐次領部

めくられず

判断ス)ヲ繼續シツツアリ太平洋戦争勃發ノ對
政策滿洲國ノ内政關東軍及特務機關ノ對伊人政策
ノ誹謗等ヲ題材トシ極メテアクトキ宣傳ヲ實施シ
ツツアリ

電信機ヲ携帶セル潜入諜者ノ活動、放火、滿軍部
ノ寢返リ等ノ謀略ヲ感知スルモ特ニ關廠直轄ノ狀況
ト判断セラルルモノナク在滿蘇聯公使館ハ赤系隱
入ノ無用ノ對日刺戟ヲ抑削シツツアリ

(備考)6月22日第12回最高會議ニ於テ「老
年兵復員法案」上程セラレ參謀總長「アントーノ
フ」上級將ノ説明ニヨレバ赤軍ハ第15階級(42
才以上54才以下)ノ老年兵ヲ半歳後ニ復員スル
計畫ニシテ茲老年兵ハ現赤軍ノ約一割即約百萬ナリ
當日大將ノ説明ニヨレバ現在赤軍ニアル女兵約百
萬ハ復員セラレザ、換言スレバ戰時工業ノ一部ハ既
ニ平時産業ニ切り換ヘタルモノアルモ赤軍
ノ主力ハ當分世界情勢ニ備ヘテ現狀ヲ維持スル計畫
ナリト言フヲ得ベシ
備「アントーノフ」大將ノ説明ヨリ推算セル現赤
軍兵力別表ノ如シ

(終)

	戰前 1939 頃	戰前ニ 終期 倍數	戰 争 末 期	記 事
砲 兵	120 <i>(Handwritten mark)</i>	4	480 (1,000-1,100万)	
砲 兵	7,000 (含後方5,000)	5	35,000	現在第一線 約15,000
砲 兵	6,000 <i>(Handwritten mark)</i>	15	75,000 内自走砲 25,000	現在第一線 <i>K</i> 砲車 2月 4,000 砲車 4,000 戰争後半期ニ自 走砲急増セリ
砲 兵	含自走砲			

(終)

